

区議会レポート

96号



葛飾区議会議員
かわごえ誠一

2023年7月21日発行

発行：

かつしか区民連合

【区議会控室】 〒124-0012

東京都葛飾区立石 5-13-1

電話 03-3695-1111 (代)

f a x 03-3697-0137

本号の内容

表面：第二回定例会報告など

裏面：タウンミーティング報告

令和5年葛飾区議会第二回定例会閉会

令和5年度第二次補正予算 47億8,280万円可決

◆去る6月6日から6月22日までの17日間の会期で令和5年葛飾区議会第二回定例会が開かれました。

自転車用ヘルメット購入費助成他補正予算可決



本会議最終日に登壇するかわごえ

◆自転車用ヘルメット着用が努力義務化になったことによる、ヘルメット購入費助成のための補正予算、交通安全推進事業経費4,376万円が議決されました。◆助成は一人あたり3,000円で昨年12月20日の法施行時まで遡っての申請が可能。◆領収書など購

入が証明できるものが必要がありますがネット購入も対象になり、8月から申請の受付が開始されます。◆その他、今定例会では令和5年度第二次一般会計補正予算47億8,280万円が議決されました。◆補正予算にはプレミアム商品券発行业務助成など商業振興事業経費13億9,612万円、中小企業等電気料金支援事業経費4億6,695万円などが盛り込まれました。

葛飾区児童相談所の設置に関する条例可決

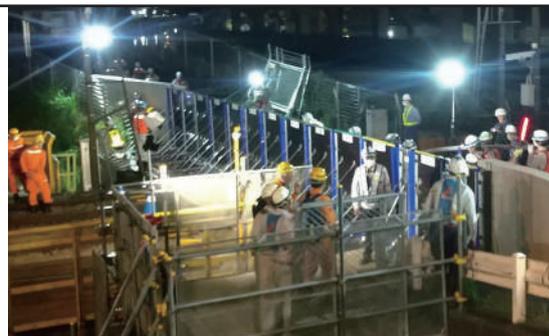
◆今定例会では今年10月に開設される児童相談所に関し、葛飾区児童相談所の設置に関する条例、葛飾区児童福祉審議会条例など10本の条例が上程され可決されました。

葛飾区歩きスマホの防止に関する条例など可決

◆今定例会では公共の場所における「歩きスマホの防止に関する条例」が可決されました。◆その他、東京都パートナーシップ宣誓制度の新設を踏まえ、区の職員に係る当該要件を改める各種条例の改正が行われました。

京成本線荒川橋梁水防訓練実施

◆6月23日から日付が変わった6月24日(土)午前1時から堀切の京成本線荒川橋梁の堤防において水防訓練が実施されました。◆堤防が周囲より3.7m低い荒川橋梁部は水防上大きな課題となっています。◆終電が通過した後、線路上に区職員が止水板を設置する実地訓練が行われました。◆昨年に引き続き二回目の実施でしたが、線路面の平坦化工事が完了しており、大幅に作業が簡素化され、設置にかかる時間が短縮されました。◆今後も区民の安全を守るため、大規模水害に備え水防訓練を積み重ねていくとのことです。



荒川橋梁線路上に設置された止水板

■かわごえ誠一連絡先■

〒124-0012 葛飾区立石8-47-18

携帯電話 090-2932-7315

e-mail : info@kawagoeseiichi.com

かわごえ誠一オフィシャルサイト

www.kawagoeseiichi.com

日々の活動はFacebookをご覧ください。

◆かわごえ誠一プロフィール◆

●1963年3月川崎市生まれ ●立石在住34年 ●防災士 ●東海大学第二工学部建設工学科卒業 ●元東京工業大学附属科学技術高校非常勤講師 ●本田消防団第四分団班長 ●葛飾区ポッチャ協会会長 ●学童保育クラブ増設運動、保田養護学校存続運動、三番瀬保全活動、保育園、学童保育クラブ父母会、小・中PTA連合会、おやじの会、図書館友の会、子育てネットワークなどに携わる ●元都議会議員秘書を経て2013年区議会議員選挙で初当選・2021年三期目当選 ●議会議員所属：建設環境委員会委員長・区民サービス向上対策特別委員会・議会運営委員会など

タウンミーティング報告

誰一人取り残さない社会 ～災害時から逆算して地域づくりを考える

◆新型コロナ拡大前の2020年2月以来となる対面によるタウンミーティングを6月21日(水)にシンフォニーヒルズで開催しました。◆今回のテーマは「誰一人取り残さない社会～災害時から逆算して地域づくりを考える」



とし、社会的に弱い立場の方々が特に災害時に困難な状況に追い込まれることから、支援のあり方を考えるために企画しました。

■企画主旨：災害時の支援への課題意識■

◆今回のタウンミーティングへの課題意識として、東日本大震災の学校避難所での帰宅困難者の受け入れ体験が根底にあります。

◆3.11の発災後、当時PTA会長を務めていた葛飾小学校で青砥駅などから多数の帰宅困難者を受入れましたが、そこには乳児、障がい者、高齢者、中学生、外国人旅行者、地方からの就活に来ていた若者など多様な方々が含まれていました。◆一晩のみの緊急避難だったのでまだ対応できましたが、これが地域で起きたらどうなるのかという危機感を持ちました。◆また、令和元年台風19号での避難所開設では、それぞれの地域の避難所の体制が整備されているか否かで避難所体制に差が生じるとともに、様々なケアが必要な要配慮者への対応が課題となりました。◆これらの経験から災害時は、配慮が必要な方々を想定しての体制整備が必要なこと、地域での関係性が重要であることを強く感じていました。

■被災地の現実・災害支援の現場から■

◆今回のタウンミーティングでは、各地の被災地で被災者への支援を行っているNGOオペレーション・ブレッシング・ジャパン(OBJ)の災害支援マネージャー弓削恵則さんを仙台からお招きし、「被災地の現実・その時要配慮者は～NGOによる災害支援の現場から・市民のソーシャルワークを育てる」とのテーマで、ご講演をいただきました。以下講演概要を紹介します。

◆災害時に助けが必要な人はどのくらいいるか?～障害者・傷病者・高齢者・妊婦・乳幼児・子ども・外国人・旅行者など、3人に一人は何かしら支援が必要となる可能性がある。◆東日本大震災では障害者の死亡率は全住民の死亡率の約2倍とのデータがある。◆実際に2019年台風15号・19号や、熱海土石流災害の被災地では、大規模災害が発生した時には行政や災害ボランティアセンターなどは手一杯になり、日頃から「つながりの少ない=助けを求められない被災者」は支援の網からこぼれ落ちた。◆災害が起きた時には行政も福祉サービスも被災をしまい、機能不全になる。◆その中でSOSを出せない人たちに声をかけられるのは離れたところにいる専門職では無理で、近くにいる人がSOSを引き出すしかない。◆日常から地域に目配りをするのが大切で、隠れた生活弱者へも手をのばすために地域の手助けが必要だ。

■被災地支援の支え合いソーシャルワークの現場から■

◆次に京都市の福祉施設のソーシャルワーカー武山世里子さんと京都とオンラインで結び、被災地での支援の話を伺いました。

◆被災地支援に入った熱海土石流災害や、その後の大規模水害などでは福祉施設が機能不全になり、業務継続計画(BCP)も役立たなかった状況が生じた。◆平時は医療や福祉の支援でいのちや



京都とオンラインをつないでの講演

生活が守られていた人たちに支援が届けられなくなる。◆「自分たちの利用者さんを自分たちだけで守ることができなかった」という声が災害の現実だ。◆ある大

規模水害で知的障害者が避難所へ行けずに亡くなった事例があるが、事前に近くの施設などと関係が作ることができ、緊急支援の依頼ができれば助けられたかもしれない。◆京都市東部の協議会ではメーリングリストなどで他の事業所と助け合う関係を作っている。◆「自分の事業所が良ければいい」ということでは限界がある。◆お互いが助けあうことで地域の福祉全体を守ることにもなる。◆個人情報など難しいこともあるが、専門職が地域を意識していることが重要であり、市民が近くの「困っている人」を助ける感度を上げる取り組みが必要だ。実際にラジオ体操の場などでつながりの機会づくりをしたり、毎月5日を安全確保の日として近隣同士の確認の機会とし、ソーシャルワークを実践している。

■市民ソーシャルワークガイドブックの取り組み■

◆地域の困っている人と支援をつなぐために「市民ソーシャルワーカー」を育てることが重要であり、そのためにOBJを中心に被災地での経験を元にした「ガイドブック」を作成しています。

◆今回、会場でそのガイドブックを使ってワークを行いました。

◆災害時の実例をもとにしたケースについて考えることで、専門職ではなくてもソーシャルワークを知り、活用するために有効な取り組みと感じました。



タウンミーティングの進行するかわごえ

■葛飾区の要配慮者への取り組みについて■

◆葛飾区の危機管理課の桂課長から「災害時要配慮者支援」について報告していただきました。◆区では避難行動要支援者対策として、本人の同意のもと名簿を作成し、自治町会と共有した支援の周知を進めているとともに、個別避難計画の作成を相談支援事業者などに依頼しています。◆また、災害時の福祉避難所73カ所を指定や、地域等への計画策定支援に取り組んでいます。◆今後、支援体制の確立や広域避難などの対策の強化が求められます。

■くらしのまると相談窓口について■

◆次に葛飾区くらしのまると相談課の吉田課長から「くらしのまると相談窓口の設置」について伺いました。◆様々な福祉制度のはざまになり、対応できない複合的な課題に対応するため、令和5年5月に窓口が開設されました。ワンストップ、アウトリーチ、伴奏支援、多機関連携、地域との連携等をコンセプトにしています。◆今までどこに相談したらいいかわからなかった方や、相談できなかった方など多様な相談が届いているとのこと。◆声を上げづらかった方々や、周囲に気になる方がいながら相談できなかった地域の方々など、福祉の支援につなげるために有効だと感じています。◆今後、身近な困りごとを抱えた方を支援につなげる取り組みが災害時に機能することを期待しています。

■大切な人を災害から守るために■

◆最後に講師から「自分以外の誰かのために行動することは自分や自分の地域を豊かにする」「被災地支援の現場では、被災したことで受けたダメージは年月が経てば経つ程、癒されず心が蝕まれていき、それを解決するのは人のつながりしかない」「そのためにも困っている人を助ける役割を担う市民が増えることが大切だ」と話されました。◆また「仮に東京で災害が起き、地元で支援が回らなくなる時は仙台や京都から駆けつけます。そのためにもつながりを広げていきましょう」と語られました。◆災害時に自分一人で大切な家族や仲間を助けることはできません。◆災害時に大切な人を守るためには、専門職と一般の市民の連携が重要であるとともに、その時のために日常から地域の中で声を掛け合える関係づくりが欠かせないことが確認できました。◆今回の講演内容を参考に、葛飾での取り組みを進めていきたいと思います。